受賞・飛鳥資料館の図録『あすかの原風景』

飛鳥資料館では、春秋の特別展ごとに、図録を刊行しています。展示品の魅力が一番伝わる図録をつくりたい、そんな気持ちから、近年は図録づくりにも様々な試みを進めています。

昨年度の春の特別展『あすかの原風景』では、明治期の地図や昭和中期のスナップ写真を展示して、飛鳥の風景のうつりかわりを紹介しました。古い写真や地図のノスタルジックな雰囲気を活かしつつも、地元の人々が地域の魅力を再発見できる図録をつくりたいと考え、デザイナーと議論を重ねました。明治期の地図は、美しい色彩や明細筆による細かい文字などの、当時の職人達の手しごともとても味わい深いものです。こうした魅力を最大限活かすために、あえて本の形を正方形に近づけ、古地図の風合いを感じる紙を使って印刷しました。地図の鮮やかな色彩を図録でも再現するために、微妙な明るさや色味についても、明日香村が所蔵する実物資料と見比べながら調整を重ねています。

図録の表紙は、地域の「起爆剤」にしたいとの気持ちもこめて、あえて強めの色味のデザインとなっています。当初はボール紙を使う案でしたが、明日香の風景がもつ温かさや懐かしさなどの雰囲気にあう新バフン紙を採用しました。

『あすかの原風景』の図録は、こうした工夫が評価されて「第60回全国カタログ展」（主催：一般社団法人 日本印刷産業連合会／フジサンケイビジネスアイ）にて、日本製紙連合会賞を受賞しました。飛鳥資料館のこだわりの図録は、飛鳥資料館・平城宮跡資料館の売店のほか、六一書房のオンラインショップで購入できます。ぜひご覧ください。

（飛鳥資料館　西田 紀子）

図録『あすかの原風景』

キトラ古墳壁画が国宝へ

2019年３月18日の文化審議会において、重要文化財キトラ古墳壁画を国宝に指定するよう答申が出されました。キトラ古墳は、７世紀末から８世紀初頭に造営された小さな円墳です。石室の内部には全面に漆喰が塗られ、大陸風のモチーフを題材とした極彩色壁画が描かれていました。このような古墳壁画は、国宝高松塚古墳壁画を含めて国内では２例しか発見されていません。

キトラ古墳の石室には、東西南北の壁面に四神や十二支が、天井に天文図、日月像が描かれており、陰陽五行思想にもとづいた世界観が表されています。石室内における壁画の全体構想が判明する点が極めて貴重であるといえます。また、天井に描かれた天文図は東アジア最古の例とされています。

特筆されるのは南壁に描かれた朱雀です。朱雀は四神の一つとして南方を守護すると考えられている神獣です。高松塚古墳の石室の南壁にも朱雀が描かれていたとみられますが、盗掘の影響で残っていませんでした。日本に現存する朱雀のうち奈良時代以前に描かれたものは少なく、キトラ古墳壁画の朱雀は貴重な遺例です。

壁画は保護のため石室から取り出され、10年にわたる修理作業を経て、現在はキトラ古墳壁画保存管理施設に保管されています。奈良文化財研究所は文化庁の委託を受け、管理や運営、公開事業に協力しています。私たちはこの仕事に携わりながら、貴重な文化財を確実に将来へ伝えていきたいと考えています。

７月20日から８月18日まで開催する「キトラ古墳壁画の公開（第12回）」では南壁を展示する予定です。ぜひ、この機会に実物の朱雀の壁画をご覧ください。

（飛鳥資料館　中田 愛乃）

キトラ古墳の壁画 朱雀